

概要

次第1：「ワークショップ実行準備会」実施報告

〔内 容〕：実行準備会および事務局からの報告

〔資 料〕：資料4、5

〔概 要〕：第2回実行準備会報告

日 時：平成22年4月7日（水） 19:00～21:00

場 所：武蔵野公会堂第1会議室

参加者：12名（事務局3名、アドバイザー1名を除く）

内 容：① 第4回ワークショップの検討内容について

② 「市民ワークショップだより」発行について

③ 「団体の施設・設備利用に関するアンケート」実施について

※「ワークショップ実行準備会」とは、毎回のワークショップの準備作業等を行うことを目的として、ワークショップ参加者中の有志で構成する会。

次第2：市民活動フロア 検討について（その②）

〔内 容〕：小グループでのKJ法によるワークショップ

〔資 料〕：資料6

〔概 要〕：

（1）検討テーマの設定

今までのワークショップで整理してきた7つのキーワード（情報、つながり・交流、設備、イベント・ミーティング、環境、市関連）のうち、実行準備会からの提案により、今回のワークショップでは、「つながり・交流」を取り扱うこととなった。

（2）アクティビティ

①目的：武蔵野プレイス市民活動フロアにおいて、「つながり・交流」を創出する取り組みとして何が挙げられるか、また、それを具体的に実行するためには何が必要かを考えること。

②方法：6つのグループに分かれて作業を行った。各グループでは、模造紙の左半分に「市民活動フロアにおける「つながり・交流」を生み出す取り組みとして、出来たらいいと思われること」を、右半分には「その取り組みを行うために、具体的に必要な方法」を記入しまとめた。

（3）発表内容の要旨：各グループの発表者が紹介した内容は下記のとおり。なお、各グループのまとめた模造紙の内容は別紙のとおり。

【グループ1】

（どんなことが出来るのか？）

- ・ 異業種による交流
- ・ ふらっと寄れる
- ・ 経験の交流、問題解決のための交流、時間・空間を越えた交流

(方法)

- ・ 「市民活動のデパート」であることを目指す
- ・ イキのいい情報を集める（同時に、怪しい情報も）
- ・ 「ジャパネットたかた」と「ヨドバシカメラ」

→ プレイスは、テレビの向こう側のバーチャルな「たかた」型ではなく、手にとって見ることが出来るリアルな「ヨドバシカメラ」型のフロア設計が求められているのでは？

【グループ2】

(どんなことが出来るのか?)

- ・ 人が集まる場所にしたい
- ・ 自分の活動のお知らせをしながら、他の活動を知りたい
- ・ 図書館の本の内容について分かる場所にしたい
- ・ 分からないことを教えてもらえる場所に
- ・ 武蔵野市にしかできないこと
- ・ 超アナログな場所にしたい
→ デジタル化しすぎているので、昔なつかしい場所などがあっても良い
- ・ モノが食べられる場所

(方法)

- ・ 人材バンクの登録
- ・ 打ち合わせコーナーでパネル展示
- ・ チラシ、パンフレットコーナーの充実
- ・ 図書館で特集しているものを展示するコーナーの設置
- ・ 打ち合わせコーナーを、簡単なパーテーションで区切ったものに

【グループ3】

(どんなことが出来るのか?)

- ・ 大前提「楽しいこと」
- ・ 団体間交流
- ・ 市民団体が主催し、市民が主役になれるイベントの実施
(コンサート、フリーマーケット、武蔵境地域でのお祭りなど)
- ・ ふらっと来て自由に立ち寄れる
(団体間の交流だけでなく、団体と個人、個人同士のつながりづくり)
- ・ 軽食がとれる喫茶店コーナー
- ・ 困ったときにすぐに相談できるようなコーナー

(方法)

- ・ 「この指とまれ」コーナー、「なんでも」コーナー
- ・ 大学のサークル専用コーナー→バンドやダンスの部活動の活動発表。

- ・ インターナショナルコーナーを常設→武蔵境は、外国人の方が多いという特色があるので、多国籍の料理を紹介したり、周辺の大学に来ている留学生と市民の交流会を開催したりできるのでは？

【グループ4】

(どんなことが出来るのか?)

市民活動フロアは、市民活動が生まれていく場であるべきだと考え、その過程を、

- i) 「リラックスして、くつろいで集まれる」
- ii) 「意図的なきっかけづくり」
- iii) 「自ら活動を創る」

の3段階に分けて考えた。

どんなことが出来るのかについては、各段階でどのような「種まき」が必要なのか、という観点で整理した。

(i)の段階において

- ・ 木のぬくもり (例: 武蔵野市や友好都市の木で出来たテーブル・椅子など)
- ・ 迎えてくれる人 (コーディネーター、コンシェルジュ含む)
- ・ カフェ的な要素

(ii)の段階において

- ・ 交流を促すイベントの実施
- ・ テーマ性をもった展示、発表
- ・ これらをコーディネートしてくれるコーディネーターの存在

(iii)の段階において

- ・ 相談機能 (活動の立ち上げ、運営の相談など)

(i)～(iii)の過程を通して

- ・ このプロセスの中に、学生や、留学生の方が入ってきたときには、具体的にどのようなサポートが必要になるのか。今後深めていきたい。

【グループ5】

(どんなことが出来るか?)

- ・ 異世代との交流、知らない人との交流、団体同士の交流、大学生同士の交流
- ・ 地域のお得情報 (例: インターンシップ、バイト情報など) が得られる。
双方向の情報交換が行える (何かを教えられる人と、教えてもらいたい人とをつなぐ機能)
- ・ 本を読んだ感想などを、これから読む人へ伝えるための試み

(方法)

- ・ 情報に対して付加価値をつける人がいること。語り部 (経験知識の豊富な人) の必要性。

(例：吉祥寺にある「白いたい焼き」→どこで売っているのか、なぜたい焼きが白いか、というような情報を、掲示板や語り部が伝える)

【グループ6】

(どんなことが出来るか?)

(i) 目的を持ってくる人に対して

- ・ 世代間交流
- ・ 団体間交流
- ・ 出会いの機会をつくる
- ・ 仲間づくり

(ii) なんとなく、目的を持たずに来た人に対して

- ・ くつろげる雰囲気
- ・ 「必ず声をかけ合う」コーナーをつくる
- ・ 「必ず名刺交換をする」コーナーをつくる

(iii) そもそも、武蔵野プレイスで何のために交流をするのか

- ・ 本からだけではなく、人から学んで知識を得ることができること
- ・ 体験して学べる場であること→体験から知識を知恵に変えることの大切さ(特に子どもたち)

(方法)

- ・ 結局は、人と人をつなげる役割の人が重要では？
そのための方法として、プレイスの「ソムリエ」を育てることが必要ではないか。

(4) アドバイザーのコメント

かなりキーワードが出てきている。今後、実行準備会でもまとめの作業をして、次のワークショップのテーマを決めてゆきたい。

つなげていくような場面では、必ずその間に入る、コーディネーターと呼ばれる人の存在がある。

異分野や、知らない人と出会うことの大切さは分かっているけども、本人ではそうした人とつながれることに気づかないことも多い。幅広い視野や経験をもった第3者が入ることによって、こうしたつながりづくりが促進されてゆくのではないかな。

地域の特色を活かしていくために、既存の組織や地域資源をどう活用し、どうリンクしていくかという視点が重要なのだと思う。

次第3：事務連絡ほか

- (1) 次回日程：平成22年5月20日(木) 18:30～20:30 武蔵野スイングビル10F スカイルーム
- (2) 今後のワークショップの流れおよび予定について

閉会

閉会后～ワークショップ実行準備会 打ち合わせ

参加者：市民9名、事務局3名、アドバイザー

- 内 容：① 「市民活動フロアを考える 市民ワークショップだより」第2号の発行について
② 当日のワークショップで作成した、模造紙を
③ 今後の日程確認